

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築(2015年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都橋大学新教室棟建設工事	階数	地上4階、地下1階
建設地	京都市山科区大宅山田3 他53筆	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、指定なし	平均居住人員	1,796 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年3月28日
敷地面積	86,182 m ²	作成者	田宮 昌明
建築面積	1,474 m ²	確認日	2017年3月31日
延床面積	6,051 m ²	確認者	佐藤 祥司



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 83%

③上記+②以外の 82%

④上記+ 82%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
<p>計画地周辺は低層住宅が立ち並ぶ地域。本計画では、京都市と新しい学び場を表出させ、未来への飛躍を象徴するファサードとし、メディカル・コモンズでの地域を巻き込んだ活動が可能な計画としている。</p>		
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>教室・研究室は共用部に対してガラス張りとし、内部へより定期的に自然光を取り込む。西日対策として、縦ルーバーを設け日射負荷を低減するとともに、窓ガラスはLow-Eガラスを採用し、熱負荷も低減</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>地階の床レベルは、キャンパスストリートから将来増築棟への段差のないバリアフリー動線としてのレベルを設定している。日射負荷の少ないドライエリアに面して教室を配置し、</p>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>将来のキャンパスストリート整備とバスロータリーの整備。将来増築される建物に向かって真っすぐ伸びるキャンパスストリートは、メインのアプローチとなるストリートは京</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>照明設備はLED照明を採用し、全熱交換型空調換気扇による外気負荷の低減を行う。また、自然エネルギー変換利用設備として、太陽光パネルを設置。中央監視による、教室の空調温度設定も行う。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>素材の持つ「質感」を重視した外観デザイン。既存棟で採用されているオレンジタイルを組積造として壁面に採用し、ブレース・スクラッチ面状を効果的に使い分ける。</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>建物北側外観は京都市らしさを感じさせる彫りの深いグリッドフレーム、東西面にはルーバーを設け、敷地に迫る住宅地(近隣住民)との視線を制限する。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される